伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和４年度第1回）審議結果等

* 日時：令和4年７月５日（火）10時から
* 場所：伊勢市役所本庁舎4-４会議室
* 出欠：
	+ 委員：別紙のとおり
	+ 事務局1

環境生活部長（藤本）、環境生活部参事兼ごみ減量課長（大桑）、ごみ減量課副参事兼ごみ減量推進係長（林）、ごみ減量推進係主査（東條）、ごみ減量推進係主事（佐波）

* 審議結果等

事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。なお、単なる資料解釈に対する説明は省略してい

|  |
| --- |
| ●報告事項○令和３年度ごみ排出量実績について【資料1-1、1-2】 |
| （委員1） | 一般の方にわかりやすい資料にするには、資料1-1のほうが見やすくて良い。 |
| （事務局1） | グラフ化するなど、皆様に見やすい形を検討していく。 |
| （委員2） | 在宅が増えたので、事業者のごみが減り、テイクアウトなど家庭のごみが増えるかと思ったら逆であるが要因は？ |
| （事務局1） | 令和2年度はコロナ禍で活動の自粛があった影響で、家庭系が増え事業系が減ったが、令和3年度もその影響が続いていると思われる。 |
| （事務局2） | 今後も社会の傾向をみながら、分析を進めていく。 |
| （委員3） | 事業系のごみの中で、観光に関するごみの量はどのくらいの割合か？ |
| （事務局2） | 現段階は数字としては持っていない。 |
| （委員1） | 家庭系燃えるごみの見通しで、何を根拠にごみが減る見通しをたてたのか？例えば、水切りを徹底するから減るなど。 |
| （事務局2） | 人口減少もあるが、雑がみ類を分けていく予測になっているので反映させている。 |
| ●審議事項　○ごみ処理基本計画の改定について【資料3】　①数値予測の補正・修正【資料2-1、2-2、2-3、2-4】 |
| （委員4） | 市内にプラスチックのリサイクル工場はあるのか？以前の職場でペットボトルのキャップが一番不純物がないということで、松阪の工場で対応していた。リサイクルも地産地消で工場を近くに誘致できないか？運搬費や保管場所等も削減できる。 |
| （委員5） | 市内にプラスチックを資源化する業者はない。回収したプラスチックは容器包装リサイクル協会（容リ協）に委託を依頼し、容リ協で割当てされた業者へ搬入しており、現在は南伊勢町の業者である。ペットボトルキャップは伊勢市が津市の業者に搬入している。松阪市に業者はあるが、分別がもっと厳しくなる。企業誘致は採算性のことがあり難しい。 |
| （委員6） | 人口予測の修正だが、予測より人口が少なくなっていないのに、ごみが減っているので世帯数を入れてはどうか？ |
| （事務局2） | ごみが減らない要因に世帯数の増加が関連していると思われるが、計画を策定する中で、他市で世帯数を採用していることがあまりないので今後研究していく。 |
| （委員1） | 人口などの問題ではなく、やれるところからやることが大事。事業者と市民が一緒にならないとできないし、前向きな視点のほうがより効果がある。水切りネットを配布したほうが良い。もらったら使用すると思う。またプラ製品の資源化と事業系ごみの減量について、具体的な考えがあれば教えてほしい。 |
| （事務局2） | 市民一人ひとりにどうやって取り組んでいただくかが重要。プラ製品については、法を待っての対応となり申し訳ない。事業者に対しても減量について進める。 |
| （委員3） | 資料では、観光客数とごみの量は相関はないと思われる。ごみの量が減っているのは、容器包装が軽量化、製造コスト削減等で見た目が減っているように思う。人口予測の見通しに対して、実績が減っていない理由は？ |
| （事務局1） | 各市町ごとの事業系ごみの県統計で見る限りでは、伊勢市は鳥羽市に次いでワーストに近い。観光地との関係性がないとも言い切れないのでは。 |
| （委員7） | 資料ではこのような数字になるが、観光客の方が出すごみはイベント等があれば大量に出て数字に表れにくい。観光客の方も事業者も意識をして取り組むことが重要。 |
| （委員8） | 弊社の取り組みで布類の回収をやめたのは、不適物が多く回収できない状態になった経緯がある。社内で雑がみの回収も進めているが、分別がわからない人が多い。伊勢は資源拠点ステーションでの案内があるので、市外の他店舗と比較して分別状況は良い。プラの資源化もかなりできるようになったが、分別は難しい。 |
| （委員2） | 清掃工場での搬入検査で、引き取られる量はどのくらいなのか？ |
| （委員5） | 以前は多かったが、今は一人で持っていける量くらい。事業活動に伴ったごみは産廃できっちり法律で定められている。プラスチック、金属、ガラスくずなどの産廃は本来は適正に処理しなければならないが難しい。現実として、事業系一般廃棄物への少量のプラ包装などの混入はある。事業者に対してのごみ減量のお願いは、構成市町や県と連携して取り組んでいかなくてはいけない。 |
| （委員1） | 各種団体へ分別の周知を徹底するのが早い。 |
| （委員6） | 伊勢市環境会議で出前講座を実施しており、幼稚園等で紙芝居やクイズなどで啓発している。子どもや若い親も分別はよく知っている。資源「ごみ」ではなく、ごみか資源か？の考え方が浸透するとよい。 |
| （委員2） | 環境問題に対して、世界的にも市民も子どもたちもどんどん進んでいる。市民がきちんと分別をしても、事業者がまとめて捨てているという話を聞いていたので、搬入検査について尋ねた。事業者の意識も上がってきて努力をしていると思う。 |
| （委員7） | 小中高生や若者の分別意識も高い。様々なアンケートを見ると、ほとんどの若者が地球にやさしい行動をとりたいと思っているが、行動して成果があるかどうかわからないという結果が多い。苦労して分別をした人にバックされると、地域のためになっていると思うことによって若者の意識が向上する。 |
| （委員4） | 幼児期の環境教育は、日本は遅れている。ヨーロッパでは小学校入学までに分別ができるのが目標。出前講座は希望する園だけではなく、全てにDVDを配布するのも良いのでは。 |
| ①記載内容の追加・修正【資料3-1、3-2、3-3、3-4】 |
| （委員6） | 2年前にキエーロ（土で生ごみを処理する容器）を使ったが、その結果は？早く土になり有効なので、進めてもらいたい。 |
| （事務局2） | ホームページで結果は掲載している。年に1回くらいだが、問い合わせはある。 |
| （委員2） | キエーロの土を花に使うときれいな花が咲いて、肥料がいらない。 |
| （委員4） | 今はコンポスト型のバッグもあり、自宅でもできるアイディア的なものを広報等で紹介するのが良いのでは。環境意識の高い方でないと、なかなか物などは買わないと思う。市民が努力するだけでごみが減るので、方法を紹介する機会があるとよい。また、学校給食の熱処理されたたい肥はどのように活用されているのか？ |
| （事務局2） | たい肥については現状把握していないので、情報収集していく。 |
| （委員6） | 早修小などは花壇に使っていると聞いている。 |
| ●その他　○第2回審議会の日程について　〇その他資料について |
| （事務局2） | 「生ごみの水切りアイデア募集」の記事を広報いせ8月15日号で予定しており、応募頂きたいのと次回の審議会で採点等の選考をお願いしたい。 |
| （事務局1） | 本日の意見を踏まえて、次回の審議会で処理計画の素案をお示ししたい。 |